

もくぞうあみだによりりゅうぞう
「木造阿弥陀如来立像」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（彫刻） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字新山
- 所 有 者 個人
- 概 要 ^{ひのきざいよせぎづく} 松材寄木造り、^{うるしはく} 漆箔（剥落）、^{びやくがん} 玉眼、^{びやくごうすいしょう} 白毫水晶
寸法：総高 115 cm（連座共） 像高 88 cm 頂～顎 18 cm
面幅 11.5 cm 面奥 12.8 cm 肩張 23.5 cm 肘張 28.5 cm
胸厚 13.3 cm 裾張 22.7 cm 裾奥 12.5 cm
- 時 代 室町時代中期の作と推定
- 公 開 個人所有のため非公開

本像は螺髪らほつが小粒でよく整っていて、髪際 32 粒を数えます。面貌めんぼうは頬の張りが少なく、三道浅く肩は撫肩なでがたとなっていて、衣文えもんの彫口が浅く、平行線に構成しています。腰下正面中央の衣文の構成、腕から下る衲衣及び袖等のたたみ方、さらには、背面の衣文の構成は、見事な彫技を示しています。室町時代の中期の作と考えられますが、ほとんど損傷がなく当初のままである点が非常に貴重です。

